

コロナ禍でも学び続ける子どもたちのために 「オンラインでの可能性を模索して」

世界中が新型コロナウイルスの脅威にさらされている現状で、日本でもこれまでとは違う生活を余儀なくされています。そのような中でも、子どもたちの学びを止めないために、本市の小・中・義務教育学校でも、オンライン(※)を活用した研修や授業の模索など日々研究を重ねています。また、甕大橋開通の効果で、甕島列島の中央に位置する鹿島小学校をリモート(遠隔操作)オンライン会場の拠点とすることが可能となり、さらなる学びの可能性が広がりました。

問合せ／本庁学校教育課指導G(内線5341)

今までとは違う研修会の在り方

祁答院中学校区では、小中一貫教育研究公開で、3年間取り組んできた道徳の研究の成果を公開しました。**蘭牟田小の5・6年生と祁答院中3年生**が一緒に行った授業と、**蘭牟田小1・2年生**の授業の2つの授業を行いました。

今回は、初の試みとしてオンラインで行い、各学校の参加者は、自分の学校にいながら映像を通じて、授業や協議の様子を参観し、送信されたアンケートの結果を全体で共有したりするなど、双方向のやり取りを通して協議を深めました。



▲祁答院中3年生と蘭牟田小5・6年生の合同授業の様子

※オンラインとは：インターネットにながっている状態のことで、学校同士や離れた会場をインターネット回線で結び、パソコンやテレビ画面を使ってコミュニケーションを図る仕組みのことです。離れていたり、お互いの移動制限がある中でもリアルタイムで会話をしたり、視聴したりできるメリットがあります。



▲蘭牟田小1・2年生の授業の様子

平佐東小学校会場では、本市の12校に設置している複式学級を対象に、市複式学級担当者等研修会が開催されました。複式学級では、2つの学年が同じ教室で授業を受けます。その授業の在り方について、それぞれの学校で工夫しながら取り組んでいます。

8月に、甕大橋が開通したことにより、甕島地域の参加者は鹿島小学校をリモート拠点会場として実施することができました。



授業の様子を事前に録画し、当日はその様子を視聴しながら協議を深め、それぞれの会場で協議したことをモニターを通して意見交換しました。

学校独自のオンライン活用方法

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、三密を避けるために、各学校では、集会や行事の在り方を見直す必要に迫られ、短縮や中止せざるを得ない状況も多くありました。

そんな中で、「形を変えてでも実施して思い出を残してあげたい」、「外部講師を招いて発達段階に合った学習を」との児童生徒や教職員・保護者の願いから、それぞれの学校で工夫を凝らした取り組みを展開しました。

川内中央中学校では、オンラインを活用した合唱コンクールを開催。出演する学年のみが、体育館で合唱を披露し、他の学年は各教室のモニターを使ってオンライン鑑賞。楽しみにしていたコンクールを実施できました。

〈生徒の感想〉

- ・練習した成果をしっかりと出し切り、みんなで信じ合えたのは。
- ・最高の思い出になりました。
- ・周りの人がたくさん助けてくれました。感謝したいです。



▲モニターにより合唱コンクールを鑑賞する川内中央中学校の生徒たち

東郷学園義務教育学校では、

中国の常熟市報慈小学校とオンライン文化交流を行いました。スポーツ交流は中止となりましたが、互いの学校をオンラインで結び、はんや踊りや合唱を披露しました。



▲常熟市報慈小学校とオンラインで相互に演技を披露(東郷学園義務教育学校)

これからの学びの可能性

紹介した他にも、各学校では、学校生活を豊かにするために試行錯誤しながら、式典や外部講師を招いた講演などの在り方を工夫しています。

また、来年度から導入される予定のGIGAスクール構想では、一人一台タブレットを整備する予定で進めているところだ。

新型コロナウイルスの影響と時代の流れで、学校の新しい生活様式を整えながら、子どもたちが描く未来のためにこれからも学習環境を整備してまいります。

- 〈児童の感想〉
- ・オンラインで遠い中国の発表を見たり、交流ができることにびっくりしました。
- ・リモートではんや踊りを見せたい、話をしたり、またやりたいです。
- ・中国の武術の迫力が、リモートでもよく伝わってきました。